

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業）
分担研究報告書

先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の難病に対する
医療および移行期医療支援に関する研究

研究分担者 氏名 和佐野浩一郎 独立行政法人国立病院機構東京医療センター
臨床研究センター聴覚・平衡覚研究部聴覚障害研究室 室長

研究要旨

先天性および若年性の視覚聴覚二重障害の患者が年齢を重ねることにより小児期から成人期へと成長するなかで、医療機関における対応、移行期医療を整備することにより、患者本人および家族の支援を充実させる。

A. 研究目的

視覚聴覚二重障害の患者はコミュニケーションに大きな障害を抱えているため、自身をとりまく環境の急激な変化に対応することが大変難しい。小児期から成人期へと移行する際に、患者自身の変化とともに周囲を取り巻く医療環境も変化していく必要があり、その支援を充実することは患者本人および家族にとって非常に重要である。

B. 研究方法

視覚聴覚二重障害患者の情報を収集しデータベースを構築することにより臨床情報および問題点を把握する。

移行期に関し、実際に診療を行っている医療機関からの情報を収集し整理することで診療モデルおよびプログラムの作成を行う。

（倫理面への配慮）

患者の個人情報に十分に留意して遂行する。

C. 研究結果

視覚聴覚二重障害に関する実態調査について第31回日本耳科学会学術講演会にて結果を報告し、議論を行った。

また、診療支援モデルの構築・プログラム作成においては【施設の体制の違い】グループにおいて、小児専門病院、総合病院、大学病院における体制の違いと、各施設において必要な移行期医療の取り組みについて検討を行った。

D. 考察

視覚聴覚二重障害患者およびその家族に対して必要な移行期医療に関し、研究代表者である

松永達雄を中心として、順調に研究が進行している。

E. 結論

視覚聴覚二重障害患者に関する移行期医療の整備に向けて引き続き取り組みを継続する。

F. 研究発表

1. 論文発表

該当なし

2. 学会発表（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

視覚聴覚二重障害患者に関する実態調査の報告

和佐野 浩一郎, 松永 達雄, 廣瀬 正幸, 岡崎 鈴代, 御任 一光, 近松 一朗, 角木 拓也, 高野 賢一, 勝沼 紗矢香, 大津 雅秀, 菅原 一真, 江崎 友子, 太田 有美, 矢間 敬章
第31回日本耳科学会総会・学術講演会抄録集 Page260(2021.10)

G. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得

聞こえチェックシステム（特願 2021-171436）

検査結果確認用クリアファイル（特願 2022-3215）

2. 実用新案登録

該当なし

3. その他

該当なし